一般質問

細井　幸雄議員

市有地の十分な利活用を

「貴重な財産であり、有効活用を図る」

議員　市役所南通りの文化会館駐車場は、目的に沿った利用が行われていない。市有地の有効活用、路上駐車の解消、商店街の活性化が期待できる「有料駐車場」を提案したい。

市民生活部長　前向きに検討したい。

▶有効活用が求められる文化会館駐車場

財務部長　貴重な財産という認識を持って、有効活用を図りたい。

今後の国際交流への見解は

議員　さきの尖閣諸島沖事件で中国政府は、報復措置の一環として自治体間交流などを一斉に停止した。中国各地では反日デモも盛んに行われた。本市と開封市も危うい交流と言わざるを得ない。今後の交流をどう考えるか。

市民生活部長　開封市では反日デモが行われず、平静が保たれていることを確認した。国の関係を注視しつつ、今後特に教育交流に重点を置き、友好関係を発展させたいと考える。

町会に対する認識は

議員　本年6月県議会で県警察本部長は、町会活動に関する質問に対し、「自治会、町内会が行う祭礼行事は、主として会員相互の親睦のため行われるもの」と答弁した。これは非常に皮相的な見方で、地域コミュニティーの本質を理解していない。市の見解は。

市民生活部長　本市の町会・自治会は常日頃から地域コミュニティーの核を担っていただいており、準公共的な団体と認識している。

栗原　隆司議員

スポーツセンター駐車場確保の計画は

「関係部局と協議し確保に努める」

議員　①スポーツセンター駐車場の利用状況は②今後、土地区画整理事業の進捗に伴い、臨時駐車場がさらに減少した場合、駐車場確保の計画はなされているのか。

市民生活部長　①臨時駐車場は、開設当初、近隣に約260台を確保してきたが、新曽土地区画整理事業の進展に伴い、現在では離れた所に約180台を確保している。利用状況は、土曜・日曜や祝日などは大変混雑しており、臨時駐車場を含めて満車状態である。②今後の状況は、一時的な市の管理地を借用しているが、継続して使用できない現状にある。今後とも利用者の利便性を考慮し、関係部局との協議を進め、利用可能な個所の確保に努力していきたい。

議員　スポーツセンターのさらなるグレードアップと利便性の向上のため、敷地内に恒久的な駐車場の設置（立体化も含め）を検討する時期にきているのではないか。

市民生活部長　可能であれば、敷地内に300台ぐらい確保したい。

歩道整備の基本方針は

議員　本市の道路行政は、県下でも大変優れていると認識するが、今後の歩道整備に当たり、基本的整備方針は。

都市整備部長　高齢者や障がい者等に対応したユニバーサルデザインを取り入れた歩行空間の整備に努める。

▶プールにトレーニングルーム、弓道場も備えた施設

召田　厚議員

今後の高齢化に向けての取り組みは

「現在、高齢者に特化した施設整備は考えていない」

議員　戸田市の高齢化率は今後25年で全国第10位とされている。行政的な検討課題として、介護・医療費の増加への対応は、第一優先で取り組まなければならない。元気な高齢者がいつまでも元気で過ごせるよう、行政がどうサポートできるのかという点から、①高齢者の健康増進のため、ジョギング用舗装を施したジョギングコースを造ってはどうか②戸田市政策研究所の報告に、「自宅近くに年齢に関係なく誰でも立ち寄れ、健康増進に向けた取り組みも行えるようなサロンの設置」とある。高齢者がリラックスした気分で街に出てきてもらえる居場所づくりとして、各公共施設のロビーやホールを開放し、雑誌や湯茶を整備して、自由に利用できるようにしてはどうか③本市は、全国有数の若い市であることを背景に、青少年の居場所を地域に整備してきた。今後は、高齢者が安全に安心して運動できるよう、壁打ちや野球、サッカーのボール当てができる壁を整備し、周囲にネットを張った広場を設けてはどうか。

▲うまく運ぶにはバランスと集中力が必要

福祉部長　①高齢者に特化したジョギングコースを整備していくという考えはない②既存施設を今までどおり利用してもらうほか、来春オープン予定の福祉施設に設けるパブリックスペースも利用してもらいたい③一般的なスポーツがこなせる一部の元気高齢者に特化した施設整備は考えていない。

そこがききたい

花井　伸子議員

こども医療費無料化急げ

「平成25年度までの実施を目指す」

議員　市長はマニュフェストで、平成25年までに通院小学校卒業まで、入院中学校卒業までのこども医療費1割負担を無料にするとしている。日本共産党市議団が行った市政アンケートでは、12月6日現在、回答者の80％が入通院ともに中学卒業までの無料化を希望し、多くの市民が現在の窓口3割負担の廃止を要望している。実施計画を急ぐとともに、現在の窓口負担をなくしては。

こども青少年部長　具体的なスケジュールについて、市民の方の要望があることは十分認識しているが、医療機関との調整、予算や周知等の準備事務を行い、マニフェストの内容で平成25年度までの実施を目指して取り組む。

▲乳児救急市民講座から

子宮頸がん・ヒブ・肺炎球菌ワクチンの実施は

議員　厚生労働省は、子宮頸がん・ヒブ・肺炎球菌ワクチン接種の助成を決めたが、戸田市における実施の検討状況は。

医療保健センター事務長　子宮頸がんワクチンは、中学1年生から高校2年生まで1回1万5千円程度を、ヒブワクチンは0歳から4歳まで、小児肺炎球菌ワクチンは0歳から8歳まで半額程度の助成を、また、戸田市独自に70歳以上の肺炎球菌ワクチンの助成を、平成23年度から実施できるよう、準備を進めている。